

令和3年6月末の在留外国人数は、282万3,565人（出入国在留管理庁ホームページ）で、訪日外国人旅行者数は新型コロナウイルス感染症の拡大により、前年と比べ減少しているものの、在留外国人数には大きな減少は見られないことから、消防職員が外国人と接する機会は増えてきています。

この研修では、消防職員を対象に、非常時において外国人を救援救助する活動が迅速・的確に行えるよう、コミュニケーション能力の向上を図るとともに、そのために必要な知識や方法等を学びます。

受講を希望される場合は、令和4年2月9日（水）までに「令和4年度 JIAM 年間派遣計画書」をFAXによりお送りください。申込手続きの詳細は、「令和4年度研修計画」をご参照ください。

消防職員コース～非常時における外国人とのコミュニケーション～

- （日程） 5月11日（水）～5月27日（金） 17日間
- （内容）
- ・自治体の危機管理
 - ※予定
 - ・異文化理解
 - ・地域の国際化と多文化共生
 - ・自治体の事例紹介（外国人への情報提供等）
 - ・スピーチコミュニケーション
 - ・外国人観光客への対応
 - ・施策立案演習
 - ・語学研修
 - 共通：英語
 - 選択：中国語又はポルトガル語 など
- （対象） 消防職員（自治体の防災担当職員含む）
- （受講経費） 概ね72,000円
- （予定人数） 30名



講義風景



救急ボイストラを使った実習風景

■ コースの特長

- 語学授業については、受講者の語学レベルに応じた少人数のクラス編成を行いますので、安心して学ぶことができます。
- ロールプレイを取り入れて、けがをした外国人に英語で様子を確認するなど、実際の状況を想定して再現することにより、生きた英語、使える英語が体得できます。
- 第二外国語として、中国語とポルトガル語の2言語から、地域の事情に即した言語を選択し、それぞれの言語の基礎を学びます。
- 講義や演習等を通して、全国各地の消防職員と意見交換をしながら、議論を深めることができます。
- JICA（国際協力機構）からの研修生を受け入れる際にも、このコースの修了者が活躍されています。

■ 参加者の声

- 講師が一流で、外国人講師からも授業を受けることができ、内容が充実していました。
- 全国の消防本部での取り組み事例を学ぶことができよかったです。

当研修所では新型コロナウイルス感染症の感染予防・感染拡大の対策を講じたうえで、研修を実施しております。詳しくはホームページをご覧ください。（<https://www.jiam.jp>）